

令和5年度 第2回

病院経営戦略会議報告

日時 令和5年4月18日（火） 14時45分～15時30分
場所 3階会議室1・2
出席者 堀之内院長 小山副院長 増田副院長 朝見副院長 安西看護部長
堀越病院経営部長 高橋病院総務課長 三上病院施設管理課長
富田病院財務課長 増田医事課長 鈴木情報管理室長
田中患者支援センター副所長
事務局 坂口病院総務課課長補佐

内 容

◎高橋病院総務課長

【報告事項】

（時間外勤務の状況（R5.3月実績）について）

- ・医師の平均は55時間で前月から4時間増、80時間超えは23名で前月から11名増。
- ・歯科医師の平均は53時間で前月から10時間減。
- ・専攻医の平均は75時間で前月から1時間増、80時間超えは16名で、前月から1名増。歯科専攻医は、56時間で、前月から5時間増。
- ・メディカルの平均は27時間で前月から1時間増。
- ・看護部の平均は前月同様7時間。
- ・事務の平均は44時間で前月から9時間増。例年、年度が切り替わるこの時期は、採用・退職等人事関係や契約事務処理等で時間外勤務時間が増加する傾向がある。

◎三上病院施設管理課長

【報告事項】

（工事に伴う停電について）

- ・当初3月予定していた延期となった電力の供給を予備線から本線への電線の変更を行うための工事を4月16日に行った。それに伴い停電が発生したが特に問題なく工事が完了した。

(東館の内覧会について)

- ・ 4月17日に市長・副市長、18日に市議会関係者を対象に東館の内覧会を実施した。

◎富田病院財務課長

【報告事項】

(さいたま市立病院中期経営計画改定等支援業務の契約について)

- ・ 本年度の中期経営計画支援業務について入札を行い、(株)麻生と契約した。
- ・ 履行期間は令和5年4月18日から令和6年3月31日、業務内容は、主に第3次中期経営計画の改定支援、計画の目標達成に向けた支援、会議等への支援や相談業務となっている。

(再生コピー用紙の使用量節減について)

- ・ コピー機やプリンターで使用している再生コピー用紙については、さいたま市役所全体の契約を本庁で行っているが、令和5年度の契約金額が昨年度と比較して大幅に増額となった。
- ・ 各部署においては、再生コピー用紙の使用量について節減にご協力いただくよう、お願いしたい。

(指名停止について)

- ・ アルフレッサ株式会社について、国立病院機構が発注する医薬品入札に関し、不当な取引制限を行ったとして、3月24日に公正取引委員会から排除措置命令及び追徴金納付命令が出された。
- ・ この命令を受け、本市においても本日、4月18日から6月17日までの2月の間、同社が入札参加停止となることが決定された。

◎増田医事課長

【協議事項】

(スポーツ医学総合センターの保険外診療の診療項目及び料金の設定について)

- ・ 令和5年5月8日に診療を開始するスポーツ医学総合センターにおいて実施する保険外診療について規則改正が必要であり、診療項目及び料金設定について協議をお願いしたい。
- ・ 診療項目及び料金設定の例としては、再生医療料として血小板由来因子濃縮物注入療法については15万円(税別)、運動機能評価料としてロコモ検診については

3万円（税別）等としたいと考えている。

- ・本庁財政課には、診療項目及び料金設定については説明済みであり、特に異論はなく了承いただいている。
 - 保険点数に合わせて金額を設定したとのことだがそのようにしなければならないのか。（増田副院長）
 - しなければならないということはないが、一般的に保険上の評価から保険点数が決められていることを踏まえ今回の金額設定とした。（医事課長）
 - 診療項目及び料金設定について了承する。（堀之内院長）

【報告事項】

（電話診察の終了について）

- ・厚生労働省による新型コロナウイルス感染症の特例により、電話を用いた診療等を行っていたが、この特例が令和5年7月31日をもって終了することとなった。当院においても、令和5年7月31日の診察分をもって、電話診察の取扱いを終了する。
- ・令和5年8月1日以降の電話診察の予約を取ることはできないので、医事課から関連部署へ周知を行う。

◎田中患者支援センター副所長

【報告事項】

（地域連携訪問活動実績報告について（3月分））

- ・3月に実施した地域連携訪問活動の実績ですが、病診連携で4件訪問し、すべて武田科長に同行いただいています。

◎安西看護部長

- ・新型コロナの感染状況も落ち着いてきたことから、4月末をもって副看護部長の24時間電話対応体制を終了する。また、管理師長を夜間2人体制としていたが、合わせて1人体制に戻す。なお、休日日勤帯については当面、管理師長の2人体制を維持する。

◎堀之内院長

- ・4月10日から6D病棟が18床、6B病棟が40床の運用としたが、成人の病床は需要が多く昨日の段階で病床利用率90%を超えており厳しい状況となっている。

一方で、ICU 病床の運用を変えたことにより重症系病床はなんとかなっている状況であるが、もう少し HCU 病床を確保できればと考えている。

- 4月1日から手術室で働いている麻酔科の医師が19時15分までいていただけるようになり安全な麻酔管理に寄与していると考えている。一方で、手術室で働いている看護師の勤務体制の工夫が必要となっているがなんとか運用できている
- 緊急の手術枠を1枠確保する必要があると考えているが、平日日勤帯で麻酔科医がもう一人必要なこと、手術室に新たに配属された看護師が習熟するのに時間が必要であることからすぐには難しいが年度後半から緊急の手術枠を1枠増やすことができればと考えている。